

1. 総括

不登校の状態になっている児童が安心して通所し元気を取り戻すためのプログラムを試した一年間だった。心理的安全性を高めることを優先し、ひとりひとりの気持ちに寄り添う支援を心掛けた。

にじのもり自然学校との合同授業や、高校生の授業形式を試み、エピックを利用する児童のニーズは個別の対応であることが確認できた。個別対応を積み重ねていくうちに小グループでの活動に参加できるようになり、楽しいと感じる時間が増えることで元気と心の余裕を取り戻し、学校生活に戻っていけることも確認できた。

学校や相談支援員とも連携し、それぞれの役割を大切にしながら、子供たちの成長を見守ることができた。不登校の状態だった子供たちが、自信を取り戻し明るい気持ちで進学することができた。

高校生の学習支援では、計画的にレポートを作成できるよう、個別に対応した。大学進学も視野に入れる生徒が増えてきた。

ほわっと自然村や、外部講師との連携は、地域全体で子どもたちの成長を見守るしくみとして重要な役割を担っている。法人理念の「地域で生きる」を軸に、ひとりひとりのちがいを認め合い、共に生きる地域づくりを目指す。

2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働日数	24	23	22	25	21	23	24	24	22	22	20	22
延利用者数	190	176	168	176	140	179	187	203	169	170	168	166
一日平均利用者数	7.9	7.65	7.6	7	6.6	7.7	7.7	8.4	7.6	8.5	8.4	7.5

※主な欠席理由：体調不良・学校へ行くため

3. 担当職員

児童発達支援管理責任者：福田由美

公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士：神戸真弓

公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士：野沢愛美

社会福祉士：伊谷野恵

児童指導員：福田精

児童指導員：神原尚美

児童指導員：鈴木祥夫

児童指導員：上本真澄

指導員：島中智也

指導員：渡邊仁

指導員：野本敏希

指導員：藤沼清美

指導員：藤野美幸

指導員：伴裕太郎

指導員：千葉崇則

指導員：村山力斗
指導員：加藤詩乃
指導員：松本聖宣

4. 年間支援実施内容

日課

9：00 送迎

10：00 月曜日：eスポーツ練習、アートクラス
火曜日：前期：にじのもり自然学校合同授業、後期：バドミントン
水曜日：アートクラス、前期：高校生授業
木曜日：調理実習（きずな）
金曜日：写真のワークショップ
土曜日：余暇活動

12：00～13：00 昼休憩

13：00 月曜日：eスポーツ練習、あつもり大会
火曜日：学習指導
水曜日：学習指導、アサーション講座、工芸講座
木曜日：学習指導、ほわっと自然村体験学習
金曜日：卓球、工芸講座、余暇活動
土曜日：余暇活動

15:00～16:00 余暇活動、個別指導

余暇活動

4月 ムーミンバレーパーク
5月 アニメイト、ほわっと自然村祭り
6月 カラオケ、ベルモール
7月 ボーリング大会
8月 大谷資料館
9月 K3CUP、ラウンドワン
10月 鹿沼秋祭り、BBC
11月 ラーメンクラブ、二荒山宝物庫、華厳の滝
12月 CCV文化祭
1月 益子焼体験
3月 ラーメンクラブ

5. 成果と課題

(1)保護者支援

成果：おやかかわ会を毎月開催したことで、保護者間での交流が生まれた。
不登校認定講師からの助言を受けることができた。
参加した保護者の心の状態が安定した。
（保護者からの共感が心の支えとなる）

課題：後半の参加者が固定化してきてしまった。
日時の検討が必要

(2)職員研修

成果：コミュニケーション研修では、より良い生活（状態）になるために、治療的会話の基礎を学び、模擬面接で体験できた。
普段のコミュニケーションから、利用者の強みを探し、それを伸ばすことを学べた。

課題：限られた時間で要点だけを伝えた今回の研修内容では、支援の場で実践するには知識が不足している。
支援の場で実践するには、より多くのスーパービジョン、ケース検討を要する。
次年度は事例検討会を通して、実践現場で使えるようにしていく。

(3)プログラム

成果：不登校児童が自分の居場所を見つけるきっかけを作ることができた。
個別のプログラムの方が、集団プログラムよりも成果を出せることを確認できた。
安心して過ごせる居場所になり、元気と自信を取り戻し、学校へ戻っていくことができた。

課題：外部講師さんに、生徒の特性や関わり方のコツなどを丁寧に伝える時間が足りなかった。

(4)相談支援

成果：個別の相談で、自分のことを知り、強みを活かす活動へと参加することで、自信を付けられた児童がいた。
支援の目的を、保護者と共有することで、共同療育者として協力していただけることができた。
保護者の気持ちが安定したことで、子供たちの気持ちが安定することも確認できた。

課題：相談室が一か所しかなく、使えない時が多かった。

6. 会議・研修

(1)支援会議

毎月1回（第2木曜日）開催し、サービス等利用計画に基づいてご本人とご家族からの情報を聞き取りながら支援計画の見直しを行った。複数の視点で策定し、利用者の強みを最大限に活かせるよう計画した。

(2)職員研修

毎月1回（第4木曜日）開催し、利用者が自らの課題に気づき、スモールステップで解消に取り組んでいくためにエンパワーメントできるコミュニケーション力や心理支援の習得を目指した。
精神障害や発達障害の基礎研修にも参加した。

- ・コミュニケーション研修（聴くこと、問うこと、褒める事）
- ・コミュニケーション研修（強みを探す、強みを活かす）
- ・コミュニケーション研修（模擬面接）
- ・精神障害の基礎研修
- ・発達障害の基礎研修
- ・ASD,ADHD,LDの疑似体験プログラム
- ・ICFについて
- ・事例検討会

○人権研修：全職員

○児童ワーキンググループ勉強会：全職員

○中小企業家同友会例会：神戸真弓

○栃木県自閉症協会研修会（佐々木康栄先生）神戸真弓・島中智也